

令和3年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<h3>1 一人一人の児童生徒の尊重</h3> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。</p>	<h3>2 友達への思いやり</h3> <p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<h3>3 道徳・心の教育の充実</h3> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）</p>
<p>【豊かな心をはぐくむ教育の推進】については、教職員はどの項目においてもできていますと評価している割合が高い。中でも【友達への思いやり】は、児童は7割以上が④「そう思う」と回答するなど割合的に非常に高く、保護者や教師に比べて自己肯定感が高いことが分析できる。その一方で、保護者からはどの項目においても②「どちらかといえば、そう思わない」と8~10%程度回答されている。今後も児童を見つめる時間での共通理解や共通実践を進めるとともに、日々の関わりを通して児童が成就感や見守られ感を実感できる取り組みを継続するとともに、児童の姿を通して保護者への学校理解をしていくことが必要である。</p>		

②確かな学力を育む教育の推進

<h3>4 意欲的な学習態度</h3> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<h3>5 授業力向上</h3> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<h3>6 ICT活用</h3> <p>子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。</p>
<p>【確かな学力を育む教育の推進】については、④「そう思う」を着目すると「意欲的な学習態度」及び「授業力向上」において教職員と保護者・児童で差異が見られる。「ICT活用」は、タブレットを用いた学習が日常的になってきたこともあり、前年度と比較して差異が見られなくなっている。これは児童に一人一台のタブレット端末を活用する機会が増えただけでなく、教職員がタブレットのスキルアップ研修をおして授業や家庭学習の中で積極的に活用できるようになったことの結果である。今後は、タブレット端末を授業の中で効果的に活用することで、児童が意欲的に学習に取り組むことができるように教職員の授業力を向上させていくだけでなく、児童の基礎的・基本的な学習内容の理解や学力向上に努めていく継続的な取り組みが必要である。</p>		

③健やかな体を育む教育の推進

<h3>7 健康づくり</h3> <p>子どもは、好き嫌いをなく食事をして適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>
<p>【健やかな体を育む教育の推進】については、コロナ禍の影響を大きく受けている項目である。適度な運動をする機会が減ったことで、どの項目においても②「どちらかといえば、そう思わない」の割合が高くなっている。</p>

④いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

<h3>8 児童生徒理解</h3> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていると思いますか。</p>	<h3>9 いじめや問題への対応</h3> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>
<p>【児童生徒理解】については教職員は全体的に子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしている。しかし、保護者や児童から②①の回答がある。児童の「わからない」と回答している割合も合わせると、教職員の差異に開きがある。【いじめ問題への対応】については経年変化を見ても差異や変化が小さいもの、教職員と児童、そして保護者によって④「そう思う」に大きな開きが見受けられる。このことから諸問題に対し、すべてに対応することができていないことがわかる。</p>	

⑤特別支援教育の推進

<h3>10 学校の支援体制</h3> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>	<h3>11 共生社会を担う人材の育成</h3> <p>「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。</p>
<p>【学校の支援体制】については、教職員は③④100%に比べ、保護者は「どちらかといえば、そう思わない」と「わからない」の回答を合わせると20%以上であった。学校で行っている特別支援教育の推進については、学校の取り組みが保護者へ十分伝わっているとは言えない。今後も個に応じたきめ細かな指導を行っていくとともに、教育相談の充実やカウンセリング研修等に尽力し、児童や保護者に寄り添った支援に力を入れていきたい。</p>	

①子どもたちの身近な安全対策の充実

<h3>12 安全と事故防止</h3> <p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p>
<p>【安全と事故防止】については、教職員や保護者に比べ、児童は50%以上が安全を意識した生活が送れていると回答している。今後も、交通安全教育や防災教育を通して危機意識をもたせる指導を行い、保護者や地域への啓発等に力を入れていきたい。</p>

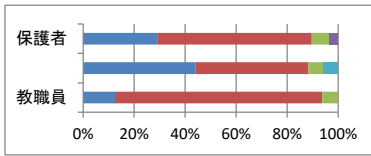
②最適な学習環境の整備

<h3>13 施設・設備の安全管理</h3> <p>学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。</p>
<p>【施設・設備の安全管理】については、本校が老朽化しているにもかかわらず高評価の割合が高い。日常の環境整備はできているため、今後は、定期的な安全点検を確実に実施し、補修や施設設備の整備に力を入れていきたい。</p>

③家庭・地域社会との連携強化

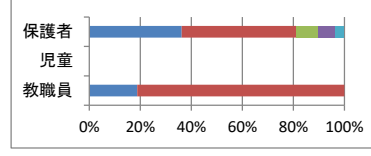
14 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



15 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

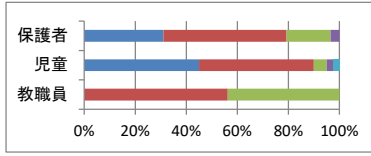


【家庭・地域との連携協力】については、教職員が④③の合計は100%であるものの、④だけでは20%に満たない。コロナ禍の中で家庭や地域と一緒に教育活動を進めることの難しさが結果として表れている。【教育方針・目標の理解】については、学校だよりやホームページ、安心メール等で情報を継続して発信したことで高くなっている。今後も職員保護者や地域等との連携方針について共通理解するとともに、学校の取組について一方的にならないように、PTAや地域と連携して学校教育活動を進めていきたい。

⑧本校の教育

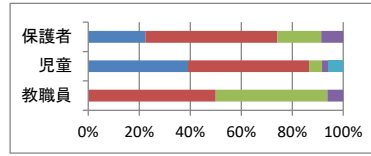
16 1 進んで行う挨拶の励行

子どもたちは、学校や地域で自ら進んであいさつをしていると思いますか。



17 2 話を聞く態度について

子どもたちは、学習や生活の中で先生や友達の話を見聞きして、最後まで聞いていますか。



【本校の教育】については、経年で大きな変化は見られないが、教職員や保護者と児童の意識に大きな差が見られる。特に【進んで行う挨拶の励行】については、コロナ禍の影響で児童が大きな声を出すことを控えていることも原因と考えられる。今後も目標を具体化して児童の達成感を実感させるとともに、教職員間で共通理解や共通実践、保護者への啓発につなげ、児童の頑張りが成長を三者で共有するよう努めていきたい。

来年度の具体的な取り組みについて

学校評価から考えられる来年度の取組は以下のとおりである。

- ・【豊かな心をほぐす教育の推進】では、児童理解や道徳の研修等を継続し、児童が成就感や見守られ感、充実感を実感できる取組を行う。更に保護者への発信を工夫する。
- ・【確かな学力を育む教育の推進】では、個に応じた指導の工夫やタブレットのスキルアップ研修等を行うとともに、児童が自ら学びとる授業づくりを行っていく。
- ・【健やかな体を育む教育の推進】では、食育等健康づくりの意識や目的について保護者や地域への発信を工夫する。
- ・【相談支援体制の充実】では、全職員による児童の支援を行うため共通理解や実践を行い、きめ細かな指導を心がけていく。また、教育相談の充実やカウンセリング研修等に尽力し、児童や保護者に寄り添った支援に力を入れる。
- ・【安全対策の充実】では、交通安全教室や防災教室を工夫して実施し、児童に意識をもたせる指導を行う。
- ・【最適な学習環境の整備】では、定期的な安全点検を確実にし、修繕等必要な設備については、整備・更新に力を入れる。
- ・【家庭・地域社会との連携強化】では、学校目標や保護者等との連携方針について職員間で共通理解を図り、タブレットを使ってPTAにも主体的にかかわってもらえるような工夫をする。
- ・【本校の教育】では、それぞれについて具現化して児童に達成感を実感させる。また、職員間で共通理解や共通実践、保護者への啓発につなげ児童の頑張りが成長を三者で共有することができるよう雰囲気づくりを行っていく。

学校関係者評価

【子どもたちの様子について】

- ・マスク着用は校内では守られていると思いますが、下校時や帰宅後に外でマスク無しで遊ぶ子どもたちを見かけます。休日や外出する時は、ご家庭でもマスク着用を声掛けをお願いしたいと思います。我慢の毎日ですが、ピークアウトまで守っていただきたいと思います。
 - ・元気に登下校する姿を見たいです。下校時の姿を見て嬉しく思います。
 - ・この2年間、コロナ禍という社会状況の中で、大人も子どもも何らかのストレスを抱えています。地域の中で子どもたちの姿を見かけることはほとんどありません。学校生活が子どもたちにとって最も楽しく充実した時間であることを願っていますし、豊田小はその環境も素晴らしいと思います。
- 【学校の教育活動について】
- ・IT教育が年々進化し、子どもたち一人ももれなく公平に恩恵を受けられるよう、先生方のご配慮は如何ばかりかと思えます。また、新しい教材の研究等、スキルアップへのチャレンジは子どもたちへの良い影響を与えることでしょう。
 - ・安心メールで保護者と学校の連絡は数年前より取りやすくなったので、非常に良いと思えます。保護者も安心すると思えます。
 - ・長く続くコロナ禍で、一人一人の子どもたちの様子を把握することはとても困難な状況で、登校することに不安や心配があればオンラインによる授業配信では欠席にならない状況が長く続くこと、学校に登校することに抵抗が出てくる子どもが増えるのではないかと懸念します。不登校になる子どもが増えないように、心のケアが必要な課題ではないかと思えます。